

【 日 出 町 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 国語	平均正答率	学習指導要領の内容別平均正答率				評価の観点別平均正答率		問題形式		
		知識及び技能 言葉の特徴や 使い方に関する 事項	思考力、判断力、表現力			知識・技能	思考、判 断、表現	選択式	短答式	記述式
			話すこと・聞く こと	書くこと	読むこと					
全国	64.7	68.3	77.8	60.7	47.2	68.3	62.1	71.7	70.6	40.2
県	66	69.7	77.4	64.8	46.5	69.7	62.7	72.4	71.2	42.4
日出町	68	73.1	78.5	64.4	48.0	73.1	63.5	73.9	76.7	41.8

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を3.3ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率、観点別平均正答率は全てにわたり、全国平均を上回っている。
- 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」を出題の趣旨とする問題では、正答率が80.3%（全国81.0%）と全国と比較してやや低い。
- 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」を出題の趣旨とする問題では、正答率が26.8%（全国平均29.7%）と低い。「条件①b（国際宇宙ステーションの中での使われ方）は満たしているが、条件①a（面ファスナーのよさ）は満たしていないもの」の割合が、半数近かった。
- 正答率が50%未満の児童の割合は、9.2%（全国20.9%）で、全国と比較してかなり低い。

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 算数	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率		問題形式		
		A 式と計算	B 図形	C 測定	D 変化と関係	E データと活用	知識・技能	思考、判断、 表現	選択式	短答式	記述式
全国	70.2	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0	74.1	65.1	76.0	75.8	53.0
県	70	64.1	56.9	74.7	74.9	75.7	73.8	65.1	75.4	75.6	53.5
日出町	70	64.0	56.1	76.3	75.7	75.0	74.2	63.8	76.4	75.0	51.6

- 教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
- 領域別正答率の「図形」「変化と関係」「データと活用」で全国平均を下回った。
- 観点別では「知識・技能」は平均値を上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題がみられる。
- 問題形式の記述式の回答は全国平均よりも1.4%低く課題がみられる。
- 「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答え」を問う問題では、正答率が38.9%（全国46.3%）で全国と比べても低く、図形について課題がみられる。
- 「帯グラフから、割合の違いから一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」では正答率が38.9%（全国46.0%）と低く、無回答率も他の問題より多い。複数のデータの比較や、それを基に言葉や数、式を使って書く記述式の問題に課題がみられる。
- 正答率が50%未満の児童の割合は、15.1%（全国15.8%）で、全国平均に比べ割合はやや低い。

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 国語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率					評価の観点別平均正答率					問題形式		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	
全国	64.6	79.8	57.1	48.5	75.1	56.0	79.8	57.1	48.5	75.1	63.9	74.4	56.0	
県	66	82.1	58.1	49.1	75.5	57.2	82.1	58.1	49.1	75.5	65.0	75.0	57.2	
日出町	67	80.2	58.8	50.6	78.0	57.9	80.2	58.8	50.6	78.0	65.4	76.9	57.9	

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を3.4ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率、観点別平均正答率も全てにわたり、全国平均を上回っている。
- 話し合いでの「質問の意図を捉える」を出題の趣旨とする問題では、正答率が91.3%（全国92.5%）と、全国と比較してやや低い。
- 「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」を出題の趣旨とする問題では、正答率57.1%（全国58.7%）と低い。B「とった」の動作主が理解できなかった割合が20.9%（全国18.4%）だった。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、15.7%（全国18.6%）で、全国と比較して低い。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 数学	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	
全国	57.2	64.9	51.4	56.4	53.8	41.1	77.7	65.6	52.4	70.5	35.0	
県	57	65.3	48.4	56.4	55.9	39.5	80.9	65.6	53.2	71.1	33.3	
日出町	62	70.3	52.6	62.6	59.5	44.4	85.3	70.2	53.1	76.3	39.0	

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を4.8ポイント上回っている。
- 領域別、評価の観点別、問題形式別全ての領域・観点で全国の正答率を上回っている。
- 「中心角60°の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ」の問題では、無回答はいないが、正答率が64.2%（全国68.1%）と低い。また、「四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する」という問題では正答率が低く、無回答率も多いことから、図形に対する課題がみられる。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、26.0%（全国32.4%）で、全国に比べて割合は低い。

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小・中）

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【小学校国語】

- 相手を意識し、立場や根拠を明確にして話したり、書いたりする学習活動に取り組みさせる。
- 説明文の特徴を理解させ、中心となる語や文を見つけて要約するなどの学習活動に取り組みさせる。

【中学校国語】

- 「伝えたいことは何なのか」を常に考えながら、聞いたり読んだりすることを意識させる。
- 叙述や描写に即して丁寧に読み進めることで、場面の展開、登場人物の心情や行動を正確に捉えて内容を理解する学習に取り組ませる。

【小学校算数】

- 基礎・基本の定着を確実に行う。
- 数の概念形成、量感を大切に授業を行う。
- 情報を取捨選択して回答するような学習活動を取り入れる。

【中学校数学】

- 情報をまとめ、必要なことを用いて文章で説明する学習（話し合い、教え合い）を取り入れる。

□ 学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の「授業改善の5点セット」における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらPDCAサイクルを機能させる。
- 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」、追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。
- 自己の考えをもち、表現すること・様々な人との対話・協働により自分の考えを深化・拡充する等、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。
- 教科を問わず指導過程の中で、相手を意識し、立場を明確（根拠や理由付け）にして表現する場を設け、話す・書く力を育成する。
- 自分の考えを広げたり、深めたりするために効果的な交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。
- 全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実にを行い、「授業アイデア例」等を積極的に活用する。

□ 習熟の程度に応じた指導の充実

- 単元テストにより学習の定着状況を把握する。定着が不十分な場合は、補充学習を行う。補充学習は、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では、放課後、職員室前の学習コーナーや少人数教室等を利用した取組を実施する。
- つきたい力を明確にし、「具体的な評価規準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導を行う。

□ 町標準学力調査を活用する

- 12月末、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□ 家庭、地域との連携

- 小学校では、授業のサポートや補充指導等に、学習ボランティアの積極的な活用を図る。
- 規則正しい生活習慣づくりのため、「10（11）—7—1運動」「テレビやゲームは1日2時間以内」の推進を図る。

【 日 出 町 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の児童に対し、学習規律（他の人が話をしているときはしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか」に対し、全ての学校が肯定的な回答をしている。学習規律の確立は、学びを支える基盤であると捉え、学校全体で共通理解を図り、取組を進めている。
- 授業改善や研修の実施、学習課題の把握などの質問については、すべての学校で肯定的な回答となっており、組織的に取組むことができている。
- 「言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の時間を通じて学校全体として取り組んでいるか」に対しては、全国と比べ肯定的な回答が多い。
- 授業におけるICT機器の活用については、「十分でない」と考える学校が多い。
- 「前年度までに近隣の中学校と成果や課題を共有しましたか」という問いに対し、すべての小学校が肯定的な意見であるが、「近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する目標設定など共通の取組を行っている」「近隣校の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。小中連携の内容については、課題がみられる。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の生徒に対し、学習規律（他の人が話をしているときはしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか」に対し、全ての学校が「できている」と回答をしている。学習規律の確立は、学びを支える基盤であると捉え、学校全体で共通理解を図り、取組を進めている。
- 言語活動については、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取組を進めることができている。
- 全学校で、学級経営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組むことが定着している。
- 近隣の小学校との教育課程の接続や合同の研修等の実施については、全学校が「十分でない」と考えている。
- 授業におけるICT機器の活用については、「十分でない」と考える学校が多い。

2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取組やすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。
- すべての小・中学校で地域内の学校と調査の分析結果は共有できているが、研究や研修等の合同実施、教育課程の接続等については課題が見られる。小学校の授業実践、中学校の学習規律等を共有し、子どもたちの学びを持続させ、9年間を見ずえた学力の定着を図るためにも、小中連携の取組を充実させたい。
- 各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙げた課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。
- 授業や家庭で、更に効果的にICT機器の活用ができるような研修を行い、実践を継続する。

【 日 出 町 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 教科の愛好度については、国語が好きと答える児童は65.3%で全国よりも6.9ポイント高くなっているが、算数は61.5%で全国よりも6.3%低くなっている。英語については73.2%で全国よりも4.9ポイント高くなっている。
 - 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」の問いに78.1%（全国70.3）が肯定的に答えている。
 - 「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、内容を理解して相手の考えを最後まで聞き受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の問いに、84.5%（全国82.6）が肯定的に答えている。
 - 「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の問いに、「1時間以上する」と答えた児童は69.9%で、全国平均より7.4ポイント高い。
 - 「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」の問いに、66.1%（52.6）の児童が教わっていないと答えている。
 - 「5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている児童は58.2%で、全国平均よりも4.4ポイント低い。
 - 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は83.2%で、全国平均に比べ、0.3ポイント低い。
- ###### 《生活習慣・自尊感情等に関すること》
- 「朝食を毎日食べていますか」に対して、89.1%（全国85.8）が「毎日食べている」と答えている。
 - 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の問いに87.9%（全国84.3）が肯定的に答えている。
 - 「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」と答えた児童は、32.6%で、全国平均に比べ3.6ポイント低い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 教科の愛好度については、国語が好きと答える生徒は、50.0%で全国よりも9.2ポイント低くなっているが、数学は68.2%で全国よりも9.1ポイント高くなっている。英語については、70.5%で全国よりも13.8%高くなっている。
- 「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「1時間以上する」と答えた児童は90.2%で、全国平均より14.3ポイント高い。
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「2時間以上する」と答えた児童は80.3%で、全国平均より26.8ポイント高い。
- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」の問いに79.1%（全国65.2）が肯定的に答えている。
- 「2年生の時に受けた授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている生徒は53.2%で、全国平均よりも8.8ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか。」に対し、94.3%の生徒が肯定的な回答をしており、全国平均と比較し、6ポイント高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、「起きている」と答えた生徒は、63.0%で、全国平均より5.4ポイント高い。
- 「将来将来の目標を持っていますか」の問いに「当てはまる」と答えた生徒は、44.1%（全国40.5）で全国より3.6ポイント高い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」と答えた生徒は、28.7%で、全国平均に比べ、5.8ポイント低い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、79.5%で、全国平均に比べ、1.6ポイント低い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- 教科の愛好度が高い方が、正答率も高い傾向がみられることから、児童生徒にとって授業が「わかる」「できる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業展開を大切にしていけることが重要である。
- 家庭での学習時間は、小・中ともに「一日に1時間以上している」と回答した児童生徒の割合が、全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化ができていると考えられる。今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、評価と指導を充実させていく必要がある。
- 小・中学校ともに、「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、内容を理解して相手の考えを最後まで聞き受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の問いに対する、肯定的な回答の割合が、全国平均より高いが、「授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりも低い。

今まで以上に、ペア学習やグループ学習を日常的に取り入れた、対話的な学習を意識するとともに、授業の中で考えたことを発表する機会を多く取り入れる必要がある。その際、何のために対話をするのか（目的）や何を話し合わせるのか（話し合いの必然性）等、授業のねらいと指導の意図を明確にして取り組む必要がある。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 朝食の摂取率は、小・中ともに「日出町アクションプラン達成指標85%」は超えており、よい傾向がみられる。今後も基本的な生活習慣の確立のために ※「10（11）-7-1運動」の推進をすすめていく。
- ※午後10時（中学生は11時）までに寝て、午前7時までに起き、茶碗一杯（食パン一枚）の朝ご飯を食べようという日出町での運動。
- 「先生が自分のよいところを認めてくれている」と肯定的に思っている児童生徒の割合は、全国平均に比べると低い。子ども一人一人についての理解を深め、日常の授業や学校生活で子どもたちとの関わりを深めていく必要がある。
- 「自分にはよいところがあると思っていますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べて低い。学校の教育活動全体の中で、支持的風土の学級づくりを行い、よりよい人間関係の構築をめざした取組を充実させる必要がある。また、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、習熟の程度に応じた指導の手立てを工夫するなど、全員が「活躍できる」「わかる、できる」授業の取組を行っていくことが重要である。